「留学生のためのバザー」30周年記念

国際教育交流センターアドバイジング部門
髙木 ひとみ・和田 尚子

名古屋大学では，名古屋大学留学生会 NUFSA（以下，NUFSA とする）及び異文化交流サークル ACE（以下，ACE とする）が主体となり，地域ボランティアの方々にも協力いただいて，インターナショナルレジデンス東山を会場に「留学生のためのバザー」を年２回（４月，９月）開催している。2017年度春学期のバザーをもって62回目を迎えることができ，30年以上にわたって留学生の生活環境の支援を継続してきたこととなる。

2017年９月10日には「留学生のためのバザー」30周年を祝して，名古屋大学東山キャンパス内のレストラン「シェ・ジロー」において30周年記念パーティーを開催した。記念パーティーは NUFSA・ACE の学生メンバーたちが企画し，歴代の NUFSA 会長や ACE 代表，地域ボランティアの方々等35名が参加して，学生たちから日頃のお力添えへの感謝伝えられると共に，関係者の間で過去の思い出話に花が咲いた。

「留学生のためのバザー」がはじまったのは1986年10月25日にさかのぼる。名古屋大学留学生会（NUFSA）が主催であった。1985年に YWCA が名古屋学生青年センターで開催していた「留学生のためのバザー」を見学した当時の名古屋大学留学生会（NUFSA）会長らが，自分たちでも留学生のためのバザーを開催できたらと YWCA に申し入れ，次年度より地域のボランティア団体等のご協力をえて，開催が実現したのである。それ以来，年２回のバザーが定期開催されている[1]。

30年以上に渡ってバザーが継続的に開催できている背景としては，名古屋大学留学生会（NUFSA）や ACE（異文化交流サークル）の学生たちの主体的・積極的な運営への参加と地域ボランティアの方々の協力によるところが大きい。YWCA，ともだち会，ALOE，ポレポレなど，これまでに数多くのボランティア団体が参加してくださり，物品提供等してくださる地域の方々や教職員からも協力をえてきた。近年は，近藤産興株式会社 代表取締役 近藤成章氏のご協力により，電化製品の調達や留学生が購入した物品の配達まで可能となり，母国を離れて不安もある留学生たちにとって日本での生活をスタートさせる基盤づくりを支えている。

「留学生のためのバザー」では，提供いただいた生活用品を，通常の販売価格の十分の一を目安にして外国人留学生に販売している。バザーの売り上げは NUFSA の活動資金として，留学生を支援する目的のイベント等で使用されている。近年では200名以上の留学生たちが来場しており，生活用品としては炊飯器，ヘアドライヤー，扇風機，電気ストーブ，自転車などへの需要が大きい傾向が認められる。また，大学寮を出て一人暮らしを始める留学生たちは，アパートでの生活に必要な電子レンジ，小型の家具，布団，カーテンなどを求めていることが多い。

バザーは，企画・開催する学生たちにとっても，学業と並行するインフォーマルな学びの場となっている。地域ボランティアの方々も参加して年４回開催される地域連絡会では，社会人と学生と教員とが膝をつき合わせて議論を重ねており，よりよい企画となるように知恵が絞られている。こうした異業種・異年齢でのコミュニケーションの場が創出されていることは，大学教育においても重要な意義を持っていると思われる。

国際教育交流センターアドバイジング部門として，バザーの企画運営に携わって感じてきたことは教育における「場の力」の重要性である。大学における学びは体系だったカリキュラムや座学に留まるものではない。留学生の生活支援という社会的価値に留まらず，参画する学生たちが様々なニーズや課題へ対応しながら，アクティブに体験的な学びを深めている姿にも未来へとつなげるべき財産があると考えている。

[1] 1986年から名古屋大学留学生会（NUFSA）が開催した「留学生のためのバザー」に関する情報や資料は，当時から協力いただいていた YWCA のボランティアの方々から提供いただいた。

名古屋大学
バザー30周年
パーティー

NUFSA バザー
第1回
1986年10月25日
1988年6月
ACE 誕生
1990年留学生卒業party

1991年 NUFSA ACE ボランティアの交流
1994年 バザー
1993年 レジデンスで……
1993年度生 送別会